同窓会会報

第75号

平成15年10月1日
発行所
茨城県東茨城郡
内原町鯉淵5965
鯉淵学園同窓会
〒319-0323 TEL029-259-2811
振替口座 宇都宮3-1632番
印刷所
㈲双葉印刷

第二十六回鯉淵学園同窓会大会に寄せて

同窓会会長　高橋隆三

本年九月三十日には本会会計年度の年度末を迎えます。そして十一月八日には第二十六回の大会を開きます。大会を盛り上げるための新しい試みについて役員会に提案、全会一致の決定を見ましたのでお知らせします。

一、大会開催期日の変更、通常十一月三日を十一月八日～九日に。

二、宿泊・懇親会場を公共宿泊施設とし情報交換と懇親の場を設ける。

三、宿泊・懇親会参加の皆様には会費六千円を負担して頂く。

四、九日午前中鯉淵学園案内を実施する。

以上のとおりです。大会の運営の在り方については前回出席者から改善の要望があり、出席しやすい期日、膝を交えての情報交換と懇親、時間を定めた鯉淵学園案内等に配慮してこの問題に対処します。皆様の進んでのご出席を役員一同お待ちしております。

私達の母校鯉淵学園は今大きな岐路に差し掛っております。鯉淵学園への国庫補助金、農業中央団体からの寄付金、茨城県教育備品整備補助金等全てが減少の一途をたどり経営を圧迫しております。一方、鯉淵学園卒の社会的評価（四大並）のうえで重要な役割を果たしてきた改良普及員資格も、制度改正によって取得への道が閉ざされようとしております。また、学生定員数の確保も少子化の流れと獲得競争の激化に依って益々厳しさを増すでしょう。

農民教育協会と鯉淵学園は一体となって難局を切り開く取り組みが必要です。私達も卒業生六千名の力を結集して母校を支援いたしましょう。

鯉淵学園は間もなく創立六十周年を迎えます。本会は過去十年の節目毎に記念事業を実施し次の成果をあげました。

十周年　旧図書館の建設

二十周年　一番教室の建設と鯉淵学園二十周年史の発刊

三十周年　同窓会館の建設

四十周年　旧図書館両翼木造建物の修理　分収林の造成　鯉淵学園寮史の発刊

五十周年　図書館の建設（内部施設の整備）五十周年史の発刊

本年七月、本会三役と鯉淵学園運営会議メンバーとの懇談の席上、六十周年事業が取り上げられ、鯉淵学園側より「農産物直売所の建設」の提案と本会に対し支援の要請がありました。建設の目的の主な点をあげると次のとおりです。

一、農産物販売実習の場を作り教育内容の充実を図る

二、地域消費者に対する新鮮高品質農産物の提供

三、農場収益の増加

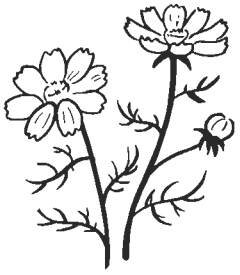
四、同窓生生産者のアンテナショップ

五、学生生活環境

この六十周年事業についても役員会に諮った結果、全面的に支援する事とし、秋の大会に提案する事が決まりました。

本会事業の中で最も重要な会報の発行についてですが、前号でも触れましたが、会費納入率約三〇パーセントでは今までと同様の発行は困難です。運用益が期待できるとして取り入れられた終身会費、現在特別会計に積立られ毎年度年度会費分が一般会計に繰り入れられておりますが、このままでは本会の財政は破綻します。今後の対応について意見の集約が大切です。

十一月八日に開催の第二十六回同窓会大会は極めて重要な大会です。各支部におかれましては、この事をご理解頂き代議員のご出席につき特段のご配慮をお願いする次第です。一般会員の皆様におかれましても多数ご出席下さるようお願い申し上げます。



学園長就任のご挨拶

学園長　井上隆弘

十年三ヶ月の長きにわたって学園長を勤めてこられました宍戸学園長がご勇退されることになりました。このたび、七月一日付けで学園長の重責を担うことになりました。この四月から副学園長として学園運営の補佐役を勤め、その間、激動の半世紀の中で、まさしく試行錯誤から生まれた鯉淵学園の輝かしい発展の歴史と、二十一世紀に羽ばたく若者の教育に相応しい教育運営の現状を目の当たりにして、その任務の重さを身にしみて感じているところです。同窓会の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、自己紹介をさせて頂きます。昭和十七年、札幌市で生まれ、戦後広島県安芸郡、福岡県博多で育ちました。九州大学農学部を卒業後、しばらく助手を勤めた後、農水省の研究機関で技術開発の任にあたっておりました。専門は土壌肥料部門です。前任地つくばでは、（独）国際農林水産業研究センターの所長、理事長として研究所の管理運営業務に携わってきました。開発途上国の農林水産業の持続的発展のため、海外での共同研究を主な任務とする試験研究機関です。したがって教育界への関わりは、大学助手、非常勤講師を併せて四年強携わったにすぎず、ほとんどが国の農業試験研究の場で過ごしてきました。幸い、国内外のいろいろなところで作物生産の場に触れることができました。北海道、東北、関東、九州の農業試験場において、また、ベルギー、タイなどに長期で滞在し、施肥試験、有機物長期連用試験なども経験してきました。それぞれの地域では数年ずつではありましたが、それを大きな財産としてまいりました。作物・家畜はその土地の気候・土壌に見事に適合して生育し、そこに住む人々は、その風土にあった文化を形成しながら、食生活を営んでいることを肌で感じてきました。いうまでもなく、農業は自然との共存・共生の生業（なりわい）です。北海道には北海道なりの、熱帯のタイにはタイなりの、自然の節理を活かした、きわめて合理的な農業があり、畜産業があり、そして食品産業、消費生活があります。先般の経済至上主義、効率優先主義はこの自然の大原則を忘れがちにさせ、本来、持続的再生産の場であるべきかけがえのない地域自然資源の破壊、粗雑な食品の氾濫をもたらす結果となっています。

このたび、はからずもここ鯉淵の里で学園長を勤めることになりますが、この学園には、地域の人々や地域の自然資源と共生しながら持続的に発展するメカニズムについて、学び、考え、行動に移すことのできる環境が整っております。これまでの経験を十分に活かし、ここに学ぶ全国から集まった三五〇名の学生さんたち、それを指導する教職員のみなさんと一緒に将来の食と農のあり方について学んでいきたいと思っています。

経済不況、就職難の時代、子供の数が二十二年連続して減少しているこのご時世ではあり、また、十八歳年齢人口が平成二年をピークに毎年三ポイントづつ低下している現在でありますが、全国の農業系大学・大学校の入学生数の増加傾向にみられますように、農業、食品産業を志す若者の相対数は増加しつつあります。「農業の魅力が見直された」、「不景気の中、技術を身につけたい」などが新聞などではその理由として分析されていますが、環境問題、食と健康の問題への若者の関心が高まっていることも見逃せません。鯉淵学園ではまさにこういった新しい社会の要請に沿った路線を他の教育機関に先駆けて歩んできているといっても過言ではありません。

学園長就任にあたって、未だ確固たる抱負を述べるまでには至っておりませんが、小出、鞍田両学園長に端を発する建学の理念に基づく鯉淵学園の長い歴史と伝統をふまえ、それを維持発展された宍戸学園長の先駆的な路線を引き継ぎ、学園のさらなる発展のために全力を尽くして学園の運営にあたっていきたいと思います。

ここ十数年は、研究をするというより、むしろ研究所の組織運営の仕事にあたってきましたが、その際、組織として「何を目指して」、「何を」、「どうやるか」を考えてきました。「何を目指して」すなわち学園のビジョンですが、今風にいうと我が国の豊かな地域資源と調和した農業・農村生活の持続的発展を目指します。「何を」は学園の役割すなわちミッションで、言うまでもなく農業・農村生活の進歩改善に寄与する人材の形成です。「どうする」はそのための手法・メソドロジー、すなわち具体的な教育行動方針です。その際、鯉淵学園ならではの強みを活かした要因、たとえば豊かな自然資源を実感できる学園の環境、全国からの意欲ある学生達、全国津々浦々で活躍する先輩、OB皆様の存在、「種まきから食卓まで」を基本にした環境保全循環型・安全安心の食・農一貫教育が実践できる環境など他に類例のない教育環境を大切にしたい、すなわち鯉淵学園の歴史と伝統に裏打ちされた、鯉淵学園の比較優位性を活かした学園運営に心がけていきたいと考えています。

いまや情報化、グローバル化の時代、お茶の間で世界中の紛争、経済動向を知ることができます。いま求められているのは、これらを正しく理解し、将来を考えることができる能力を身につけることだと思います。世界情勢を広く・長期的に捉え、考える、そして気負うことなく自ら身近なことからひとつひとつ実行できる、そういった実践力をもった意欲ある青年農業者・農村地域リーダー・技術者が鯉淵学園から巣立って行くことを目標に学園の運営に全力を尽くしていきたいと思っています。

最後にお願いがございます。鯉淵学園は平成十七年に創立六十周年を迎えます。五十周年と同規模の記念事業というわけにはまいりませんが、「学生達の教育環境の改善」と「同窓会の皆様との長期的な連携」を理念に、現在、同窓会三役に相談をもちかけているところでございます。原案ができましたら会報、ホームページなどを通して皆様のご意見などいただきたいと考えております。同窓会の皆様の暖かいご支援とご協力をよろしくお願いしつつ、就任のご挨拶とさせて頂きます。

鯉淵学園の研究活動に対するご寄付及び鯉淵学園優先入学（同窓会推薦）へのご推薦のお願い

財団法人農民教育協会
常務理事兼事務局長　木村春夫

同窓会の皆様には、母校学園のため物心両面にわたり暖かいご支援を賜わり、学園の運営を預かる農民教育協会の責任者の一人として深く感謝いたしております。

学園の経営におきまして、授業料等学生負担金、国の補助金、寄付金が重要な財源になっておりますことは、すでにご案内のとおりであります。

この寄付金につきましては、皆様のこの会報を通じて、平成十二年度から、協会理事長、学園長、高橋同窓会会長、学園教務部長から、お願い申し上げ、毎年ご協力いただき、当会報にその方々のご紹介をしていただいております。紙面をお借りし厚くお礼申し上げます。

この寄付金につきましては、ご案内申し上げておりますように、鯉淵学園の農業（生活栄養を含む）に関する試験研究事業を推進するための寄付金として、所得税法及び法人税法に係る「特定公益増進法人」として農民教育協会が農林水産大臣の証明を受け、税制上の優遇措置がとられております。この特典を継続して行くことが、特に大口のご寄付をしていただいているJAグループの協力を得るためには不可欠な要件となっております。

この特定公益増進法人の更新審査は二年ごとに行われますが、その審査は、更新ごとに厳しさを増しており、その指摘として、一つは、協会学園への寄付者が特定の団体に固定せず、個人を含め広く寄付を募ることでないと特定法人の趣旨にそぐわない、二つは、学園における試験研究の量と質の向上・成果の公表活用にさらに努めること等の詰責を受けています。このため、前者については毎年「募金趣意書」を作成し、他の団体・企業をはじめ、個人として同窓会の皆様にご支援ご協力をいただいているところです。また、後者については学園において「環境保全・循環型農業の確立のための実証的研究」、「農業担い手育成の検証的研究」の全学的取り組み、各研究室の課題研究等の充実に努めております。また公表の仕方も学園研究報告、HPの充実等にも努めております。

今年度も、出費多端の折から恐縮に存じますが、なにとぞ学園の試験研究充実のためご協力賜りますようお願い申し上げます。

次に、同窓会の皆様に昨年度からご協力をお願いしております、本学園優先入学制度につきましては、今年も引き続き皆様の関係者に学園の特色をお話いただき入学志願者をご推薦いただきますようお願い申し上げます。

今、学園では、十八才人口の減少の中で、鯉淵学園の特色である二十一世紀の日本農業と国民の栄養を支える人材を養成することを大きな目標とした独自性の高い教育で、その教育内容の充実に努め、自信を持って学生を迎えたいと、教職員一同学生募集に努力致しております。私も微力ながら近隣の高校に出向き、本学園の特色を案内し入学を薦めてもらうよう進学指導の先生に依頼して参りましたが、鯉淵学園を知らない先生もおられましたので、学園の名前と特色を若い世代の高校の先生方に認識してもらうよう努力する必要があると痛感した次第です。

学園において学生募集に努力するのは当然でありますが、六千人にのぼる同窓生の皆様が各地で各層にわたってご活躍いただいていますので、学園の特色をご理解していただいている皆様に、ご子弟や近隣の関係者に、学園の特色や概要をお話いただき、学園への入学をお薦め下さいますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

末尾になりますが、皆様のますますのご健勝と今後のご発展をお祈り申し上げます。

鯉淵学園の近況とお力添えのお願い

教務部長　涌井義郎

学生募集にご協力ください

少子化によって窮地に立たされている短大、専門学校が多い中、鯉淵学園は同窓生のみなさんのご協力もあって、なんとかぎりぎりの学生数を維持しています。入学定員一二〇名の八〇％（九六名、四学年で三八四名）が、学園経営の限界域です。今春は一〇八名が入学しましたが、来春はさらに定員を満たすべくあらゆる努力をしているところです。

みなさんの地域の農業の活性化のためにも、鯉淵学園への入学者をご推薦ください。同窓のみなさんの「推薦書」を入学願書に同封いただきますと、「優先入学」として扱います。優先入学用の願書様式があります。ご連絡いただければすぐお送りします。

教育の新たな取り組み

鯉淵学園は常に魅力的な学校でなければなりません。食と農業の世界で働こうと志す青年たちを力強く励ます教育を行いたい。そのために、教育に新しい魅力を作り出す努力を行っています。近年は次のような取り組みを行っています。

(一) 全教職員は、平成十三年から「環境保全・循環型農業の実証研究」と「若者新規就農促進教育の研究」に取り組んでいます。このプロジェクト研究の成果は、そのつど講義・実習・卒業論文に活用していきます。研究費は、同窓のみなさんの貴重なご寄付によって賄われています。今後ともご支援をよろしくお願いします。

(二) 「有機農業」の教育を行っています。昨年春には一部の畑で有機JASの認証を取得し、有機農法の実習も行えるようになりました。生産物は購買部で直売し、人気があります。

(三) 畜産・加工コースでは、「家畜体内受精卵移植師」の講習会開催権を取得しました。現在の二年生からこの資格指導を行います。

(四) 農業は自然環境と密接に関わっています。新科目「保全生態論」の実習フィールドとして、水田二〇aを使ってビオトープを作るプランを進めています。随分附の東池に注ぐ水の浄化実験としてもこの場を使います。

(五) 創立六十周年記念事業として「農産物直売所」を設置したいと、同窓会に協力をお願いしました。この直売所は、学生の「販売実習」の場としたいというのが主旨ですが、学園農産物とともに、同窓のみなさんの生産物・加工品を販売できる店として、他に例のないアンテナショップ（同窓生の直売所・全国物産店）にしたいと考えています。十一月の同窓会大会で議論していただくことになっています。

入学者数・在学生数の推移

（※在学生数は各年度4月現在）

区分＼年度	10	11	12	13	14	15
入学者数	103	99	93	83	88	108
充足率(%)	85.8	82.5	77.5	69.2	73.3	90.0
在学生数※	437	429	389	351	334	346

鯉淵学園人事異動

〔退職〕

学園長　宍戸弘明
教授　佐藤　亮
〃　中野光志
〃　土崎常男
〃　中村信夫
技師補　高橋和幸

新しい学園のスタッフですよろしく！
♪新任教職員の自己紹介・抱負♪

今年四月から、新たに六名の教職員が着任しました。みなさんに自己紹介と抱負を語ってもらいました。

［川崎昇三］

農業簿記論、農業経営分析論、農村調査論担当・教授

宇都宮大学農学部総合農学科を卒業して茨城県に奉職。試験研究機関を中心に行政（県庁）、教育（農業大学校）、普及（農業総合センター・専門技術員）と歩いてきました。そして、今年三月に農業研究所長で定年退職しました。出身は秋田県で実家は農家です。ズーズー弁はなかなか直りません。若い時は酒も随分飲みました。昔は油絵、釣り、今はゴルフ、旅行等が趣味です。

学園は自宅から近く、親近感を持っておりました。学生とはかなり年齢差がありますが若い気持ちでやりたいと思います。よろしくお願いします。

［藤澤一郎］

植物病理学、バイテク基礎担当・教授

出身は岐阜です。昭和四十八年に名古屋大学大学院農学研究科（博士課程）を終了し、農林水産省に奉職して、北海道農試（札幌）、野菜試（津）、東北農試（盛岡）、農研センター（つくば）、九州農試（熊本）、北陸農試（上越）、再び農研センター及び独立行政法人農研機構中央農研センター（つくば）等に勤務しました。平成十四年度末に定年退職しました。価値観が多様化する社会で、今の若者が自己の目標とその置き所に悩む気持ちを理解しつつ、経験をふまえた指導・助言を行いたいと思っています。

［植田和子］

栄養指導論、食品材料学担当・教授

昭和四十五年に常磐短大（食物専攻）を卒業しました。卒業後、病院、スポーツクラブ・福祉専門学校などに勤務し、今年四月から鯉淵学園にお世話になっています。また、現在もクリニックなどの栄養指導や運動指導の仕事は続けています。今までの経験や現在している仕事が学生の役に立つようにしたいと願っています。同時に、私も他の先生や学生から新しいことを学ぶつもりです。わが子よりも若い学生とお話しするのは楽しいものですね。よろしくお願いいたします。

［藤井絵美］

生活栄養科学科　助手

今年三月に東京家政大学栄養学科を卒業し、学生食堂で働いています。友部に生まれ育ち、祖父の家が随分附にあるのですが、鯉淵学園の事は知らないことばかりです。学園で様々なことを吸収し、学生の皆さんがよりよい学生生活を送れるよう努力してゆきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

［野澤ゆう］
研修科　主事補

東京から茨城に出てきて五年になります。農業がしたいと考え鯉淵学園に入学しさまざまなことを学びました。在学中、生物工学研究室に所属し、さつまいもの茎長培養を行いました。顕微鏡をのぞきながらの細かい操作が難しく、はじめは何度も失敗を繰り返しました。しかし、それも克服しウイルスフリーができたときはとても感激しました。その学園で就農準備校、主事補として働くことになりました。学園の講義や実習で学んできたことを生かしながらもっと多くのことを得ていきたいと思っています。しっかり食べてぐっすり寝てバリバリ働き、若い学生や先生方に負けないようにがんばります。宜しくお願いします。

［森下寅幸］
農業経営科学科（畜産農場）主事補

今年三月に鯉淵学園農業経営科学科畜産・加工コースを卒業し、四月から畜産農場で働いています。まだ、日が浅くとまどうこともありますが、学生の指導、そして自らの目標達成のために知識・技術の習得に頑張りたいと思いますのでよろしくお願いします。

平成十五年度　新一年生の意識調査

事務部　企画渉外係

鯉淵学園では、今年四月に両学科合わせて一〇八名の新一年生を迎えることが出来ました。企画渉外係では、本学園の教育をさらに充実させることを目的とし、新一年生の意識調査を実施しました。その結果の一部を、ここで紹介させていただきます。

今年度の新入生の状況は、農業経営科学科七三名（男性：五六名、女性：一七名）、生活栄養科学科三五名（女性：三〇名、男性：五名）となりました。また、出身高校別に見ると、農業経営科学科では実業高校（農業高校他）出身者が三六名（五〇％）、普通高校出身者が三六名（五〇％）となり、その割合は半分になっています。そして、家庭の状況を見ても農家出身者（専業、兼業含む）が三八名（五三％）、非農家出身者が三四名（四七％）となり、この割合もほぼ同じ程度になっています。これは、「食の生産」、「食の安全」に関心を示す若者が農家、非農家を問わず増えてきているためだと考えられます。この様な傾向は数年前より見られていたため、本学園では普通高校出身者にも戸惑うことなく専門の講義や実習に入ってもらうため「農業技術入門」などの基礎科目（選択科目）を準備しています。この科目を履修することにより、普通高校出身者もスムーズに本学園での学習に入り込めているようです。今後もこの様に現在の学生には何が必要なのかを常に考えながら、柔軟に対応していきたいと思っています。

次に新入生が本学園で何を学びたいのか、何を期待しているのかを的確に把握するため「興味のある分野は？」という質問をしました。その結果、両学科合わせて五八名もの多くの学生が「環境・自然」をあげており、ついで「健康・栄養」が四五名、「食の安全」が四二名となっていました。本学園では平成十三年より「鯉淵学園総合研究～環境保全・循環型農業実証研究～」をスタートさせ、「農業・食・自然」に関する多くの研究成果を発表してきました。この様な本学園の教育・研究に対する姿勢が学生に支持された結果だと考えています。今後も各教官が一丸となり研究をさらに進展させ、より良い学園教育の発展に寄与していきたいと考えています。

最後に本学園では、教育方針や学園生活などを多くの人に知ってもらうため鯉淵学園のホームページ（http://www.koibuchi.ac.jp/）を開設しています。新入生の二〇名（一九％）がこのホームページを見て連絡選択の判断材料にしたと答え、さらに四七名（四三％）がホームページを見たと答えてくれました。この様に合計六七名（六二％）もの多くの学生が入学前にホームページを見て、学園生活を感じ取ってくれています。同窓会の皆様も、本学園のホームページを見ていただくと、学生の学園生活の一端を理解していただけると思います。どうぞ何かの機会があれば、本学園のホームページを見ていただければ幸いに思います。

都道府県支部長　殿
会　員　各　位

鯉淵学園同窓会
会長　高橋　隆三

第26回同窓会定期大会について（ご案内）

拝啓　残暑厳しき折から、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃は、同窓会活動につきまして格別のご協力、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、平成15年８月３日(日)同窓会館において開催された第７回常任委員・監事合同会議において、第26回同窓会定期大会を11月８日(土)に下記要領により、開催することを決定致しましたのでご案内申し上げます。　敬具

記

1．第26回同窓会定期大会
　日時：平成15年11月８日(土) 13:00～16:00
　場所：鯉淵学園　第３番教室

2．懇親会
　①会場：総合老人保険センター　ひぬま荘
　②住所：茨城県東茨城郡茨城町大字石崎2837-1
　　TEL 029-293-7355　FAX 029-293-7358
　③開催時間：17:00～19:00

3．宿泊及び宿泊料
　①宿泊先：上記　ひぬま荘
　②宿泊料：6,000円（１泊２食付）

なお、大会後の懇親会において、出席代議員と支部活動等の意見、情報交換、また学園の教職員の方々を交え懇談をはかる。　以上

都道府県支部長　殿

鯉淵学園同窓会
会長　高橋　隆三

同窓会費納入の促進について

拝啓　盛夏の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は同窓会活動につきまして格別のご協力、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、同窓会活動は、平成14・15年度の事業計画に基づき推進してまいりましたが、とりわけ財政の確立強化について、会費納入率が30％と極めて低い状況であります。

会費の納入方法としては、年度会費１期２年度分3,000円と終身会費の納入を勧めてきました。

このような会費納入の現状のなかで改善策の一環として、年度会費の自動振替を神奈川県支部等から提案がありました。検討のうえ、銀行、ＪＡバンク、郵便局と交渉したところ、郵便局の窓口で、年１回1,500円の年度会費の自動振替が出来ることになりました。

つきましては、従来の納入方法に加え、新たに年度会費1,500円を郵便局から自動振替による会費の納入促進をはかりたいと思いますので貴支部に置かれましてもお薦め下さるようお願い申し上げます。

振替納入方法は、郵便局「自動送金利用申込書」に①払出口座、②受入口座（同窓会口座）③送金金額の指定（1,500円）④特別送金日に記入のうえ窓口に提出することにより完了しますので、貴支部におかれましても、未納会員の方々に支部総会、地域の集い等において、会費納入をよろしくお願い致します。　敬具

『農業本論』と小出満二先生

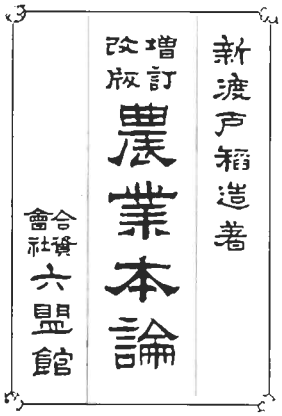
伊東　馨（19期卒）

新渡戸稲造の名著「武士道」が発刊されて一世紀が過ぎたが、私はそれ以前（明治三十一年）に著作された「農業本論」に関心があった。しかし、目にすることはなかった。ところが、今から二十八年前に北大農学部に農業改良普及員研修で一カ年留学することになった。ある日、北大前の老舗の古書店で例の「増訂改版農業本論」を見つけた。名著にふさわしく分厚く（A五版七〇六頁）装丁も立派な著書であった。価格はポケットマネーの範囲、私にはこの大著を読破する力はないが貴重な書物であり何時か一読したいと思い求めた。この書籍は北大農業経営学教室にも一冊しかないそうである。

「農業本論」を手にして長く読むこともなかったが、ふと思い出して読んでいると序文に「此改版に就きては、農学士小出満二君の手を労したること甚だ大なり特に記して、深く同君の労を謝す」の記述にいささか驚き、同時に己の無知を恥じた。実は、小出満二先生は晩年鯉淵学園の初代学園長を務めた方であり、学園は私の母校であったからである。先生は高潔な人柄と高明で敬愛されていたが私は残念ながらご生前直接謦咳に接することはなかった。

「農業本論」は農業の意義を幅広く説いた、農業の原点ともいえるもので、今こそ日本農業が「農業本論」に学ぶ事が多いのではないだろうか。

小出満二先生は明治十二年兵庫県に生まれ、東京帝大農科卒業、後に九大教授、東京高農校長を歴任。大学卒業直後「農学栄えて農業滅ぶ」の有名な語録を残した横井時敬博士の最初の助手であったが肌に合わず混迷していた時「農業本論」に出合って新渡戸稲造博士に傾倒し師事したといわれている。

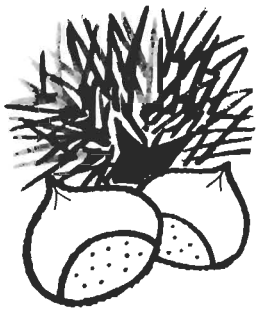


鯉淵学園は茨城県内原町鯉淵に所在する農と食の指導的人材を養成する四年制の大学同等の専門学校で、創立五十余年の歴史がある。戦前の内原訓練所のころに当時、陸の士官学校と称されていた、満蒙開拓指導員養成所が終戦で閉鎖となり、その一部と学生が引き継がれ農専相当の全国農業会高等農事講習所として発足したのが学園の沿革である。困みに第二代学園長の鞍田純先生勇退後に北大出身で北農試場長をされた秋浜浩三先生が第三代学園長に就任した。当初から鯉淵学園の教育が「行学一致」であり、札幌農学校の「クラーク精神」が横溢していたという。「ヒューマニティーを基調とした広い視野と科学的な考え方と実践力を育成する」ことが建学の理念である。

鯉淵学園では昭和三十六年度から農林省委託で農業改良普及員の基礎学力向上のための通信教育を開始し、北海道から当時の現職普及員百三十余名が修了している。そして本科等の卒業生百五十余名を含めると相当の数になる。

北海道と鯉淵学園の関わりは遠く小出満二先生と「農業本論」の縁が架け橋となっているといえないだろうか。

機関誌「道有」からの転載
元北海道職員



支部・同期の動向

佐賀のサムライ十人 はがくれに集う

鯉淵学園・佐賀県支部（支部長 原口豊治 8期）は、平成十五年三月五日（火）佐賀市「はがくれ荘」に集い、春季の支部総会を催した。

この日参集したのは僅か十名の少数だったが、往年、大活躍された3期江頭大先輩はじめ、目下、奮闘活躍中の55期溝口君現役新人までサムライ揃い。催しは、各自それぞれからの自己紹介、現況の報告など談論風発に終始。

最後に総会のまとめとして、

①今後、支部総会参加者の倍増。その為に開催会場や日程の再検討

②お互い県内同窓生の消息、動向の把握

③新しい学究の徒を、一人でも多く、学園に送ろう等々を確認

「はるかに、かすむ…」を大合唱して再会健闘を約し散会した。

福岡支部「ばってん会」開催

三月八日（土）午後十二時より、福岡市中州の『大阪屋』において二年ぶりの福岡県支部同窓会「ばってん会」が開催されました。

今回は九名の参加でしたが、うち二名は女性という「ばってん会」始まって以来の快挙？に男性陣は大喜び。

金高支部長の挨拶の後、事務局からの会計報告、参加者の自己紹介と近況報告、そして佐野先輩の乾杯の音頭で懇親会が始まりました。

途中、今回参加できなかった方々の近況報告等を交えつつ、思い出話やこれからのことなどを語り合い、楽しいひとときを過ごしました。

記念撮影の後、坂井先輩の締めの挨拶で次回での再会を約束し、午後四時に閉会となりました。

次回も、二月後半の開催を予定しておりますので、より多くの参加を期待しております。

二期四組の集い

金田 裕章

一月の中旬、広島の学友が分厚い封書をよこした。何が来たのかと開いてみたら、再会を訴える添え書きをしたクラスメイトの年賀状が十数枚入っており、「京都か大阪で集まる機会を作ってくれ」と熱っぽく書かれていました。なるほど京都なら知名度も高く距離的にも東西ほぼ均衡する位置にあるので良かろうが、反面「何も俺がやらなくても…」と思ったり、一肌脱ぐことにしようかとも考えたり迷いました。昭和二十二年卒業だから〝久し振りに集まろう・集まりたい〟と言う情緒的発想は誰にもあるが、果たして「京都まで実際に足を運んでくれる者が何人いるだろうか？」とその心配が頭をもたげてくる。

二～三日考えた末、集まる意義ねらいを明確にした上で、幾つかの戦略を講じてやってみる

ことにした。即ち、「内原精神を懐古しつつ友情を温め、吾が歩んだ人生の誇りと自信を一層確かなものにして、これからの暮らしを活き活きとしたものにしたい…」と目標を定め、対策として、①喜寿という人生の節目を「集い」にリンクして考える、②苦楽を共にしてきた愛妻の同伴参加を勧める、③僭越ながら独断で世話人を指名し、それぞれの交友ルートを通して事前に広く濃密に参加の呼びかけをして貰う事にした。

戦後混乱期の卒業だから先ず名簿を確定し、会場を平安会館に決めて、府観光課での情報収集、銀閣寺・哲学の道を歩いてみて大まかな構想をまとめた。これを趣旨書と開催要領案の形にして世話人に送り意見や改善点を求めた。参加費などを勘案して都踊りの見物は割愛するなど開催要領を確定し、通知を全員に発送した。締め切り日を待たずして、知り得なかった情報が次々と集まってきた。夫婦同伴出席が三組となり、海外活動二十年、消息不明と噂された級友の出席が明らかになるに及んで、「集い」に対するみんなの関心は一挙に高まった。クラスには既に六名の物故者を数えるが、その内一人の奥さんは案内を大変喜んで出席して頂いた。ラジオさえ無かった当時の寮生活で、友の吹く尺八の音は心和ますものであったが、萩原鈴耕、高木鈴莞の両氏は演奏家として既に名をなしており、今回特別演奏が実現して往事を偲ぶ縁（よすが）となった。

さて、本番の宴会懇談は、全員二分間スピーチで概要報告、膳を挟んでの懇ろな会話・談笑が続き、時間の経過も忘れるほどでした。お開きはみんなで肩を組んで寮歌斉唱・イヤサカーでした。

今回、健康を損ね止むなく欠席となった級友も〝友への想い〟は変わらない。吾が人生の生き様・友への語りかけ・近況報告・写真記録等をパソコンに取り込み「友へのメッセージ」・「一期一会の絆」として編集し全員に郵送した。喜寿を迎える齢を重ね青春の三年（みとせ）を共にした親友と思い出や生き様を語る事は「今回が最後の機会ではないか…」と言う切迫感がみんなの胸の片隅に宿っていた、これが二期四組の集いに対する求心力ではなかったか…。（完）

平成15年4月10・11日　平安会館

五期生会東京大会
東京パストラルで開催

去る五月二十四・二十五日開催した。二年前の長野大会で決定した文集『常陸野』は昨年春に完成配布、さらに、寄せられた感想などを集めた『ひこばえ集』もこの二月に配布して、熱い余韻の残る中で、総勢三四名の盛会となった。

初日は総会、懇親会と、お互いに今の生き様を語り合って尽きない夜を過ごし、二日目は、観光バスで東京散策の後、午後二時東京駅前で互いの健康を祈り、再会を誓って固い握手また握手で、東へ西へと別れた。

寄せられた礼状の一節を紹介して報告の結びとする。

『握手でお迎をうけ、卒業以来一気に五十三年前にタイムスリップした五期生会、一年前からの予告に始まり、周到な計画と準備で何かとお心遣いをいただき、存分に堪能させて貰いました。翌日の観光も何十年振りの浅草寺と界隈の散策、吾妻橋からの隅田川下り、川から眺める東京風景はまた格別なもの、お台場に上って東京新名所見物、時間が惜しまれた「科学未来館」の見学と昼食など、すべてに満足でした。本当にありがとうございました』

東京大会幹事一同
平成十五年六月　文責　木村

「鯉淵学園・農研友の会・in山陰」第十二回大会・二三名集う！

鯉淵の出会いから、早や四十六～四十一年経過、夢の如しで、今年は六月七日・八日に山陰路で開催。

水の都松江市と神話の里出雲大社、山陰の静かな自然と、小泉八雲・横山大観・河合寛次郎・水木しげる・を尋ねながら。

夜は、酒と肴と情報交換に時を忘れ、深夜となる。

最終日は、「魚とゲゲゲの鬼太郎ロード」の街、鳥取県境港市で魚と妖怪と遊び、六月七・八・九日を通じ、幾人かの新しい出会いもあって、三日間にわたる研修も盛会に終わりました。

初日は、空路三時間、陸路十時間の旅にも負けず、二三人のスピーチはアッという間でした。浅田会長は、二セの（二年～三年）出会いから「村（土に、農に）に生きる心と人との関わりを大切に生きた」とおっしゃる。

今日まで継続できたことは、皆さんの温かいこころを大切にした、努力の結果が、今も会の出会いを新鮮にして、新しい仲間が参加して頂ける自由な雰囲気に、また何とも得難いものがあります。

地元、島根県の農政に携わって来られた石田一秀先輩の歓迎の言葉を戴き、農業の厳しさと、楽しさを、どう調和させて生きるか、正に生き方の問題でも。現在は村興しに、純米酒造りに挑戦中（赤名峠）とか。

白築ミエ子さん美酒（〃）と裏方さんに感謝。

観光バス車中、無給ガイド（東北弁）K氏外活躍、母校鯉淵学園・入学生の減少問題について、大竹氏、西潟氏、益子氏から現状の取り組み課題解決への諸案の提言と、会員の皆様の温かいご支援方策について、少時間でしたが、真剣な意見交換がなされました。

今回も、特別参加の皆様もこころ一つに楽しみ、多くの女性部の皆さんの元気を土産に、男性群も酒量勢なるうちに、来年は徳島県での再会を約束して元気に解散しました。（完）

（写真・深澤15期／文・岡本14期）

四国地区合同同窓会開催

高知県支部　山下　秀雄（23期）

去る、八月十日（日）高知県土佐郡土佐町「さめうら壮」において四国地区合同同窓会を開催しました。

高知市では、第五十回よさこい祭りが開幕されており、鳴子おどり見物をかねて十日に開催しました。

ただ、同窓会前々日八日には、台風十号が、室戸市付近に上陸、最大瞬間風速六九・二メートル、雨量ともに大変な被害となり開催が心配されましたが、香川県の同窓生二名が台風被害に遭われたとのことで欠席となり、香川・愛媛・高知、の各同窓生一五名の参加で開催することができました。

同窓会総会では、物故会員への黙祷のあと、高橋隆三同窓会会長からのメッセージ披露、各県での同窓会活動報告、二年後の次期開催については、徳島県に相談することなどが協議され、懇親会へ。愛媛県岡野幹男氏のミカンの差し入れもあり、夜も更けるのを忘れてお互いの親睦を深めることができました。

静岡県支部総会

平成十五年八月三十一日開催
ブケ東海、参加者　一四名

当日、神奈川県支部長（11期生）鈴木昭司さんにも、来賓として出席して頂きました。

また、次期支部長として21期生の高橋紀久夫氏が選出されました。

新役員紹介
支部長　高橋紀久夫(21)
副支部長　鈴木　俊彦(22)
副支部長　田代みよ子(24)
事務局長　新関八千代(23)
事務局員　神尾　尚宏(51)
事務局員　大西美紀子(52)（旧姓 東）

平成14・15年度都道府県別会費納入状況集計表

H15. 8. 30

支部名	会員数	納入者数		終身既納人者数	合計	納入率(%)	支部名	会員数	納入者数		終身既納人者数	合計	納入率(%)
		年度	終身						年度	終身			
北海道	269	39	10	45	94	34.9%	京都府	105	12	4	30	46	43.8%
青森県	69	0	0	12	12	17.4%	大阪府	54	8	2	11	21	38.9%
岩手県	184	20	6	39	65	35.3%	兵庫県	134	30	3	18	51	38.1%
宮城県	91	9	4	22	35	38.5%	奈良県	15	0	0	7	7	46.7%
秋田県	109	8	1	31	40	36.7%	和歌山県	41	0	0	6	6	14.6%
山形県	204	10	2	25	37	18.1%	小計	454	52	13	96	161	35.5%
福島県	255	18	0	31	49	19.2%	鳥取県	64	1	1	10	12	18.8%
小計	1,181	104	23	205	332	28.1%	島根県	163	6	3	21	30	18.4%
茨城県	905	53	20	192	265	29.3%	岡山県	68	4	3	13	20	29.4%
栃木県	234	9	8	59	76	32.5%	広島県	112	8	3	20	31	27.7%
群馬県	126	5	4	33	42	33.3%	山口県	79	7	5	29	41	51.9%
埼玉県	189	13	4	50	67	35.4%	小計	486	26	15	93	134	27.6%
千葉県	206	15	8	46	69	33.5%	徳島県	25	0	0	6	6	24.0%
東京都	128	7	4	32	43	33.6%	香川県	30	1	0	8	9	30.0%
神奈川県	107	10	1	31	42	39.3%	愛媛県	52	0	1	13	14	26.9%
小計	1,895	112	49	443	604	31.9%	高知県	40	3	1	6	10	25.0%
新潟県	280	19	3	64	86	30.7%	小計	147	4	2	33	39	26.5%
富山県	104	6	1	19	26	25.0%	福岡県	52	6	3	11	20	38.5%
石川県	58	2	1	16	19	32.8%	佐賀県	73	4	2	13	19	26.0%
福井県	179	2	8	26	36	20.1%	長崎県	51	7	1	8	16	31.4%
小計	621	29	13	125	167	26.9%	熊本県	82	5	4	21	30	36.6%
山梨県	31	3	1	8	12	38.7%	大分県	43	3	3	8	14	32.6%
長野県	297	15	9	63	87	29.3%	宮崎県	130	5	3	26	34	26.2%
岐阜県	52	7	3	14	24	46.2%	鹿児島県	139	11	6	29	46	33.1%
静岡県	96	7	0	20	27	28.1%	沖縄県	156	3	5	22	30	19.2%
愛知県	101	4	1	31	36	35.6%	小計	726	44	27	138	209	28.8%
小計	577	36	14	136	186	32.2%	海外	18	0	0	2	2	11.1%
三重県	47	0	2	13	15	31.9%	合計	6,105	407	156	1,271	1,834	30.0%
滋賀県	58	2	2	11	15	25.9%							

平成14・15年度卒業期別会費納入状況集計表

H15. 8. 30

卒業期	会員数	納入者数		終身既納人者数	合計	納入率(%)
		年度	終身			
1	48	3	1	26	30	62.5%
2	97	9	2	54	65	67.0%
3	104	11	6	52	69	66.3%
4	91	22	1	54	77	84.6%
5	71	13	3	40	56	78.9%
6	27	0	0	23	23	85.2%
7	75	9	1	52	62	82.7%
8	79	14	1	38	53	67.1%
9	101	13	3	54	70	69.3%
10	103	13	2	33	48	46.6%
小計	796	107	20	426	553	69.5%
11	78	4	2	39	45	57.7%
12	55	4	1	23	28	50.9%
13	89	8	2	35	45	50.6%
14	91	5	3	31	39	42.9%
15	91	8	2	35	45	49.5%
16	73	3	2	23	28	38.4%
17	63	6	6	24	36	57.1%
18	55	8	9	22	39	70.9%
19	96	8	3	34	45	46.9%
20	85	5	3	29	37	43.5%
小計	776	59	33	295	387	49.9%
21	89	2	5	26	33	37.1%
22	133	4	2	28	34	25.6%
23	163	12	3	51	66	40.5%
24	150	14	8	43	65	43.3%
25	171	10	4	35	49	28.7%
26	143	7	6	32	45	31.5%
27	117	12	1	23	36	30.8%
28	90	8	2	15	25	27.8%
29	82	3	2	18	23	28.0%
30	89	3	3	18	24	27.0%
小計	1,227	75	36	289	400	32.6%
31	91	5	0	11	16	17.6%
32	111	6	4	10	25	22.5%
33	126	6	2	11	19	15.1%
34	115	6	2	11	19	16.5%
35	114	0	1	7	8	7.0%

卒業期	会員数	納入者数		終身既納人者数	合計	納入率(%)
		年度	終身			
36	114	0	1	7	8	7.0%
37	89	2	0	4	6	6.7%
38	81	2	1	2	12	14.8%
39	78	1	0	1	2	2.6%
40	65	0	0	3	3	4.6%
小計	984	28	11	67	118	12.0%
41	69	0	0	2	2	2.9%
42	54	1	0	0	1	1.9%
43	95	6	1	9	16	16.8%
44	93	5	0	7	12	12.9%
45	99	6	0	3	9	9.1%
46	73	1	1	3	5	6.8%
47	62	0	0	3	3	4.8%
48	71	1	0	3	4	5.6%
49	81	2	2	4	8	9.9%
50	96	3	0	2	5	5.2%
小計	793	25	4	36	65	8.2%
計	4,576	294	104	1,113	1,523	33.3%
51	127	3	0	1	4	3.1%
52	94	2	3	0	5	5.3%
53	121	1	2	29	32	26.4%
54	113	5	0	42	47	41.6%
55	93	16	25	0	41	44.1%
56	82	8	14	0	22	26.8%
小計	630	35	44	72	88	14.0%
通1－5	887	75	8	85	168	18.9%
小計	887	75	8	85	168	18.9%
賛助	12	3	0	1	4	33.3%
計	1,529	113	52	158	260	17.0%
合計	6,105	407	156	1,271	1,834	30.0%

通教1－5期内訳

通 1	178	13	3	21	37	20.8%
通 2	220	21	3	16	40	18.2%
通 3	267	19	1	21	41	15.4%
通 4	190	11	1	21	33	17.4%
通 5	113	11	0	6	17	15.0%
小計	968	75	8	85	168	17.4%

九期会についてのお知らせ

茨城県在住の九期生の大半が集って、次期開催の茨城会について協議した結果、平成十六年三月卒業後五十周年を迎えることから、一年繰り上げて平成十六年六月に開催することが決まりました。

日程の第一日

鯉淵学園集合、学園案内、学園と同窓会の現況報告、次期開催（期日・場所）についての協議、会場を筑波グランドホテルに移し懇親会、尚希望者は筑波山登頂（ケーブル利用）

第二日

午前中貸切バスで観覧（潮来町か筑波研究学園都市）、昼食後解散

開催通知は年明け早々発送します。

代表幹事　高橋

平成十四・十五年度会費納入者名簿【報告】

平成十四年十一月十五から平成十五年九月三十日までの払込通知受理分。確認と領収証書代わりの報告です。間違い、ご不審の点はご連絡願います。

また、領収証書を必要とする場合はご請求ください。○数字は卒期、括弧数字は通信過程卒期です。

◎年度会費

○十三・十四年度分

【岩手】
③守屋高雄
通4田村信一

○十四年度分

【秋田】
⑮鷹田道之助
【富山】
通1宇野一利
【京都】
⑨伊原弘子
【福岡】
⑭樋口賢治
㉑藤村政隆
【宮城】
通2板坂登
【秋田】
④桑名健一
【山形】
⑧高橋光夫
【福島】
㉜相原孝志
【茨城】
⑩市野沢弘
選23齊藤博
【群馬】
⑩藤生栄一
【埼玉】
⑨渡澤保彦
【千葉】
④満永正昭
㉔斉藤民雄
⑯福沢留委子
【神奈川】
⑬真弓千枝
【新潟】
⑩小林敏雄
㉒角山優子
⑤木村百恵
⑯内藤真典
【富山】
⑤水野嘉孝
【長野】
⑤森井泉範顕
㉘青木三枝
㉝掛川一富
通5吉田栄寿
【愛知】
通3荻野功
【京都】
㊺井上芳子
⑯中村理恵
【大阪】
⑨山下重治
【岡山】
通2南茂夫
【広島】
⑦谷川法之
【山口】
㉘神出登
⑭国行佐紀子
【福岡】
③佐野治人
㊷丹次郎

○十四・十五年度分

【北海道】
⑰谷越耕三
⑳中田勝子
通3野上直義
通4荒川祐一
【岩手】
②久保良雄
⑰菅原東

○十四～十七年度分

【新潟】
通2風間謙治

○十四～十九年度分

【栃木】
⑪岡本雪夫
【長野】
㉝太田千尋
【宮崎】
㊾持永雄作

○十四～二十年度分

【福島】
通4山口喜志江

○十五年度分

【北海道】
⑤本間久
【熊本】
㉔吉丸民雄
【宮崎】
㉞広田敏男
【鹿児島】
⑧平谷資利
⑯上別府博
⑯平岡陽一郎

○十四～十六年度分

【北海道】
⑱長坂悌三

○十五・十六年度分

【北海道】
⑲渡辺巌
【山形】
⑱安部嘉子
【茨城】
⑯大平真弓
【栃木】
⑬小野崎郁夫
【埼玉】
⑦橋長誠
【東京】
⑯近記子
【長野】
⑧小平仲
【大阪】
②北島隆
【鹿児島】
⑯菅村幸男
【福島】
④佐藤忠司
通1窪田喜代衛
【茨城】
特選20出津博基
【神奈川】
③奥田平二
【高知】
③広見汜
【佐賀】
④橋本利也
【長崎】
㉗尾崎原轟

○十六年度分

【岩手】
通1工藤義一

○十六・十七年度分

【岩手】
通5猿館敬三
【千葉】
⑫服部政明
⑲卜部恭郎

○十六～十八年度分

【鹿児島】
通3持留正道

○十六～二十一年度分

【岩手】
⑭高橋貞雄

◎終身会費

【北海道】
⑯中村正光
⑰小山裕
⑱中井正明
㉘高田芳憲
㊻高田藍
通2上板与吉
【岩手】
⑱菅原正志
⑲上澤義主
【宮城】
⑰庄司克巳
【山形】
㉞伊藤りえ
【茨城】
⑩中村幸子
⑲早川冨美子
㉓皆川洋治
㊻小林弘明
㊻大川喜章
【群馬】
㊻田口憲夫
㊻増田正人
【埼玉】
㊻長島里味
【千葉】
④満永正昭
⑱東瀬洋子
㊺古畑平
【東京】
㉙田中豊弘
㊻竹内美登里
㊻亀岡延尚
【新潟】
通2三国昭七
【福井】
⑱津田洋治
㊻上嶋和彦
通1赤澤徹
【長野】
⑤若林孝
⑲細井千重子
㉑平松昭二
㉓池田陽子
㉜大沢政弘
㉝掛川一富
㉝樋口和久
【岐阜】
㊻猿渡広幸
【愛知】
①古瀬敏雄
㊻小嶋定之
【滋賀】
㉑岡本嘉明
㊻奥村健
【京都】
㊻井上幹一
【大阪】
⑮高田修身
【兵庫】
㉕徳永悦子
【鳥取】
⑩藤原只巧
【岡山】
③内海一潔
⑰濱本勲男
㉜松原孝子
【山口】
㊳前田貢
【高知】
②土井三千一
【福岡】
③鹿江琢史
【熊本】
⑤白坂正治
【宮崎】
㉖斉藤克巳
㊻武田育也

◎協会寄付金

【福島】
⑭三部美津子
【茨城】
⑨田所守
㉓皆川洋治
【栃木】
通3角田武雄
【埼玉】
⑯石田善吾
【千葉】
⑨斉藤常夫
【東京】
②森安一夫
【三重】
⑤花井巳代治

◎同窓会寄付金

【茨城】
⑨田所守
⑰矢口晃
㉙人江美弥子
【静岡】
⑨樋口英世
【三重】
⑤花井巳代治
【山口】
⑱山根邦夫

四期（昭和二十四年）卒業生

㈻文化学園　理事長

大沼　淳先生

文化女子大学　学長
文化服装学院　学院長
文化外国語専門学校　校長

叙勲　勲二等　瑞宝章

平成十五年四月二十九日、大沼先生は永年にわたる私立学校教育や服飾学校教育の振興に貢献された功労により、勲二等瑞宝章を贈られました。まさに斯界における最高の勲章と承っております。このことは、先生にとって生涯の栄誉であられることはもとよりですが、文化学園にとっても実に大きな名誉であり、また遡って学生時代を過ごされたわが鯉淵学園も、一同衷心から慶祝申し上げる次第であります。

先生は昭和二十一年四月に鯉淵学園にご入学。石橋幸雄先生（教授・農学博士）の研究室で農業経営学を専攻されました。「全寮生活でしたが極めて自由、三年間結構楽しく過ごしました。全国に優れた友人がたくさん出来たのも生涯の幸せだったと思っております」と当時を語っておられます。在学中、国家公務員第一回試験に合格され、卒業と同時に、人事院に入られました。人事院では、戦後の教員人事制度を再構築する責任者として目覚ましい活躍をされていましたから、昭和三十二年、文化服装学院の創設者の懇請を受け、学園に移られた時は、正直驚きました。後にその経緯をお聞きして納得・感服致しました。学園の将来のみならず、私学全体及びファッション産業の発展に尽力されたこの永い年月、先生の受章は単なる慣習や成り行きにあらず、受けるべくして受けられた素晴らしい勲章であります。

先生のご業績・ご活躍については、断片的には私の手許にもありますが、この際、さらに文化学園秘書室にお願いして、貴重な資料をたくさん頂戴しました。限られた紙面でのご紹介はほんの一部、私の一存でご略歴とお写真を中心に掲載させて貰いました。

先生の右胸に輝くのは今回の勲二等瑞宝章、頸章と左胸下は平成十四年十月九日にルーマニア政府から贈られた功績勲章勲二等、そして左胸上は昭和五十九年四月二十九日に受章された藍綬褒章であります。

略歴に記載されてありませんが、昭和四十一年三月末、農民教育協会理事としてご就任いただき、現在に至っております。昨秋同期会の折りに頂いたお便りの一節〝日々多忙を極めておりますが、農作業で鍛えた精神力でなんとかやっております〟とありました。先日（平成十五年六月六日）文化学園創立八十周年記念式典に参列させていただきました折りに、お祝いは申し上げましたが、改めて同窓会報に一文を寄せ、鯉淵学園同窓生一同、先生の栄誉を讃え、さらなるご健勝とご長寿、併せて文化学園のますますのご発展を、衷心よりお祈り申し上げ、祝辞と致します。

（平成十五年六月十八日）
名誉教授・西村典夫）

大沼　淳 履歴書（略歴）

昭和３年４月11日生（長野県飯山市）

《履歴》

昭和20年	海軍兵学校修了（終戦のため）
24年	鯉淵学園卒業
24年	人事院に採用される
35年	学校法人文化学園理事長（現）
38年	市川製作所（現・市光工業株式会社）社長
44年	文化女子大学学長（現）
49年	城石学園（現・文化杉並学園）理事長（現）
51年	文化服装学院学院長（現）
55年	文化外国語専門学校校長（現）
58年	文化長野学園理事長（現・学園長）

《公職歴》

昭和39年	全国各種学校総連合会理事長（現「全国専修学校各種学校総連合会」現在、最高顧問）
40年	文部省大学設置審議会委員　９期
43年	文部省私立大学審議会委員　２期
46年	社団法人日本ＹＰＯ（日本青年社長会）会長
59年	臨時教育審議会専門委員
平成３年	財団法人日本ファッション教育振興協会会長（現）
５年	文部省大学設置・学校法人審議会委員　３期
５年	ファッションビジネス学会会長（現）
６年	ＮＰＯ（日本社長会）会長
８年	財団法人私学研修福祉会理事長　３期
９年	ファッション環境学会会長（現）
10年	繊維ファッション産学協議会副理事長（現）
12年	日本私立大学協会会長（現）
12年	日本私立学校振興・共済事業団運営審議会委員（現）
12年	文部省国立大学等の独立行政法人化に関する調査検討会議委員　２期

《その他》

昭和59年	藍綬褒章受章
平成14年	功績勲章勲二等受章（ルーマニア政府より）
平成15年	勲二等瑞宝章受章